



川越町立川越中学校
学校だより 第2号
令和8年 4月21日



<http://www.school-kawagoe.ed.jp/kawagoe-j/>

川越中学校 令和8年度教育ビジョン

私たちは やる気 ほん気 こん気 げん気 を校訓として
学校教育目標『豊かな心』を土台とした「確かに生きる」力の育成のもと

<http://www.school-kawagoe.ed.jp/kawagoe-j/>

自分を大切に
する生徒
他者を大切に
する生徒
粘り強くやり
切る生徒

生徒

人を大切に
する学校
安全で安心
できる学校
地域や保護者
とともにある
学校

学校

づくりを目指します

主体性を育み、『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として

一人一人の子どもたちを大切にしたい5つの取り組みをすすめます

わかる・できた
思える授業

- 学び合う・教え合う授業づくり
- 日常的な授業改善
- 指導と評価の一体化
- ICT機器の活用の日常化
- 家庭学習の定着

生徒に寄り添う
生徒理解の充実

- 心に寄り添う生徒指導
- 個別最適を目指した教育支援と進路指導
- 日々の教育相談の充実
- 家庭・地域・関係機関との連携

認め合う・支え合う
環境づくり

- 安心して自分の想いを伝えることができる居場所づくり
- いじめ差別を許さない心の育成
- 自尊感情・自己肯定感の涵養
- 道徳教育とキャリア教育の推進

子どもたちが主体
なる自治活動

- 生徒会活動の充実と活性化
- 学校生活づくりへの参画
- 主体的な実践場面の設定
- 地域活動、ボランティア活動への参加・参画

心とからだの健康

- 授業や行事等をいかしたからだづくりと心づくり
- 地域とともにある食育教育
- いのちの大切さを考える講演会
- 読書活動の推進

| | | | | |
|---|---------|--|--------|---|
| 教師力の向上 | 生徒に関わる力 | 保護者に関わる力 | 確かな授業力 | プロとしての自覚と研鑽 |
| <ul style="list-style-type: none"> ■ ワーク・ライフ・バランスの実現を目指して ■ 川越エキスパートの実施 | | <ul style="list-style-type: none"> ■ 特別支援教育の視点 ■ 個人情報の適切な管理と整備 | | <ul style="list-style-type: none"> ■ ICT機器の効果的な活用 ■ 危機管理能力と適応 |

| | | |
|---------------------------------|---------------------------------|----------------------|
| 家庭・地域・社会との連携・協働 保・幼・小との学びの連携 | 地域教育力の活用 川越スタンダード（学びのルール）の定着 | 情報発信と啓発活動 深い学びの獲得 |
|---------------------------------|---------------------------------|----------------------|

川越町教育基本方針 五つの「SHOW」

| | | | | |
|--------------------|----------------------------------|----------------------|--------|------------------------|
| 疑問をもつように 誘いましょう | 思いやりにつながるように 家庭内のルールづくりをしましょう | 感情に任せたまは言は やめましょう | 待ちましょう | コミュニケーション能力を 高めましょう |
|--------------------|----------------------------------|----------------------|--------|------------------------|

令和8年度、川越中学校の「学び」の方向性

『教育ビジョン』とは、学校がこの1年間で目指す姿や中心的に実施する活動等を表したものです。今年度の川越中学校教育ビジョンは、昨年度のビジョンをベースに、文言等を整理しつつ、少し変更を加えたものになっています。ビジョンの中から「軸」になるものを紹介します。

「わかる」「できた」と思える授業

生徒たちの力がより伸びるように、その成長が生徒自身実感できるような授業を目指していきます。そのために、「学び合う授業を通して

安心して自分の思いを出せる授業づくり」をテーマとして、教員も研修や日々の授業改善に努めます。



将来を見すえた個に託した支援

多様性の中で、本校においても、特別な支援が必要な生徒〔特別支援教育〕、登校が難しい生徒〔サポーター一む〕、日頃の生活で日本語での会話が難しい生徒〔ワールドクラス〕等、個別の支援が必要な生徒がいます。将来の社会との接続を考え、生徒の特性や課題にあわせて、できる範囲で個別の支援を行います。



地域の方と日本語を学ぶ「ワールドクラス
交流サロン」

安心して頼りが伝えられる仲間づくり

大人の世界でも子どもの世界でも集団生活において、人間関係のトラブルが存在します。そのトラブルをどう乗り越えていくか... これも1つの「学び」と考えてます。そして、そのためのベースとして、安心して自分の思いや意見が言えるような学級となるよう仲間づくりをすすめます。



クラス全員で、自らの思いを出し合う「クラストークング」



図書室に入れる本を選ぶ「生徒選書」

自治活動の推進

中学校卒業は、義務教育卒業です。社会に出ていくことを前提とし、学校という社会の中で、自らができることを自らで考え、行動にうつしていけるように、日々の学校生活、生徒会活動、地域との連携等を通して、自立・自律・主体性を育みます。



調理実習を通して学ぶ「食育」

心と体の健康づくり

中学校3年間で、個人差はありますが、身体も心も大きく成長するときです。自らの体のことを正しく知り、生涯に通じる学びとして、体育の授業だけでなく、行事、保健・健康教育、食教育等をすすめます。また、いのちの大切さについて考える機会をつくります。

※ 写真は昨年度のものです。